2017(平成 29)年度 NBRP 情報運営委員会 議事要旨

日時：2017（平成 29）年 11 月 1 日（水）14:00～16:00

会場：情報・システム研究機構 会議室

出席者：田畑(委員長)、小原、小林、五斗、竹谷、田畑、仁田坂、根本、星、榎屋、矢口、城石、仁木、川本、友永（松沢委員代理）の各委員

欠席者：中川、成瀬、細矢、平田の各委員

オブザーバー：文部科学省ライフサイエンス課 佐々木係長、
日本医療研究開発機構（AMED）基盤研究課 鈴木調査役、落合主幹、笹土主幹
鈴木知財室長、鹿児島特任研究員、深見九大教授、村上首都大教授、
岡田筑波大研究員（渡邊オブザーバー代理）、桑名広報室長、佐藤顧問

事務局：総務企画課長、研究推進チーム

議事に先立ち、田畑委員長より、文部科学省佐々木係長、AMED 鈴木調査役、落合主幹、笹土主幹、また新規委員 4 名、オブザーバー 7 名の紹介があった。

【議 事】

1. 報告事項

(1) 第 3 期（H24-28）の活動報告と今年度（H29）の計画

課題 1：情報センター

川本委員から資料 1、2、3、4-1、5に基づき、情報センター整備プログラムの成果報告（第 3 期 5 年分の活動報告）、平成 29 年度事業計画、第 4 期審査結果、体制図について報告があった。その中でも、審査結果の指摘事項である ABS 対応の体制整備を優先的に実施し、重点的な体制の見直しを行った旨、説明があった。

また、平成 29 年度活動報告について、以下の説明があった。

- ・第 4 期から一般管理費 10%が措置されたため、実際に事業に使用できる予算が減額しており余裕がない状況である。本年度も例年並みの執行では予算的に厳しくなっており、来年度以降も見直しが必要である。
- ・データベースに蓄積しているデータ数はリソース（系統・DNA）が 653 万、成果論文として約 29,000 報となっている。
- ・NBRP リソースの情報公開支援について、データベースの改変や開発が予算的に厳しいことから、現在、AMED に追加予算の要望を提出している。
- ・遺伝研の井ノ上逸朗教授が研究代表者として採択された AMED の難治性疾患実用化研究事業（IRUD Beyond）の研究課題に、川本委員が分担者として参加し、情報センターとして協力していく計画となっている。

課題 2：GAIN

友永代理から資料 4-2に基づき、GAIN の概要、第 3 期成果報告、第 4 期及び平成 29 年度の達成目標と実施計画、各個体のゲノム・行動・形態情報の収集、個体情報の拡充と個体群管理、情報提供の国際化の推進について説明があった。

また、GAIN の個体を使用したゲノム論文が報道発表される旨、報告があった。

課題 3：GBIF 日本ノード（JBIF）

川本委員から資料 4-3に基づき、平成 29 年度の現在までの活動報告（国立科学博物館：研究会開催、標本情報の電子化・データベースの構築、生物多様性情報関係者との連携促進。東京大学：生物多様性情報の利用・活用推進、種名チェックリストの作成、生物分布情報の

収集及び電子化、種情報システムと DNA バーコードシステム構築。国立遺伝学研究所：体制の変更、サーバ・ポータルサイト保守作業外注状況、サーバ運用状況、GBIF データ登録状況、JBFI ポータルサイト更新状況。)について報告があった。

また今後の活動計画（国立科学博物館：生物多様性情報の利用・活用推進、標本情報の電子化・データベース構築。東京大学：生物分布情報の収集・電子化、WEB 検索システム実装及びプロトタイプ作成。遺伝研：GBIF データ登録、JBIF ポータルサイトの更新。）について説明があった。

課題 4：ABS 対応

【国立遺伝学研究所】

鈴木知財室長から資料 4-4 ①に基づき、平成 29 年度上半期活動報告（遺伝資源取得支援、分担機関活動、大学体制構築、大学体制直接支援と事例収集、国際対応、NBRP リソース機関への対応）について、報告があった。続いて、平成 29 年度下半期活動計画（遺伝資源取得支援、大学体制構築、NBRP リソース機関への対応）について説明があった。

【九州大学】

深見教授から資料 4-4 ②に基づき、平成 29 年度活動報告（研究材料の入手支援、入手手順調査）について報告があった。

【首都大学東京】

村上教授から資料 4-4 ③に基づき、平成 29 年度活動報告（研究者への直接支援、支援ツールの作成）について報告があった。

【筑波大学】

岡田研究員から資料 4-4 ④に基づき、平成 29 年度活動報告（手続きの理解支援、コンタクト紹介助言、折衝助言、折衝仲介支援）について報告があった。

また、ABS 対応について以下の意見交換があった。

- ・ 8 月 20 日に名古屋議定書が国内で発効され、各大学機関でも対応が進められ、ABS 専門の部署を設置しているところもある。
- ・ 文科省から大学機関宛に相談窓口の設置や体制の構築について通知がされており、ABS 学術対策チームとして事例を示しながら指導や支援をしている。
- ・ ABS 全体の担当省庁は環境省であるため、環境省の ABS 指針説明会等で説明を行うなど、文科省を通じて環境省と情報共有や対応についての相談をしている。
- ・ デジタル配列情報について、資源を持ち出すことはなくても、現地で配列情報のみ取得し、その情報が元となって知的財産が生まれるのではないかとの見解から、名古屋議定書の対象に含めるべきとの意見が出ているため、日本学術会議が年内に緊急提言を出す予定で動いている。

課題 5：NBRP 広報

桑名 NBRP 広報室長から資料 4-5 に基づき、広報室の設置要綱、人員、審査結果コメント、予算、これまでの活動、今後の活動について説明があった。

今後の活動として、12 月 6 日（水）からの日本分子生物学会における展示、また、12 月 20 日（水）に品川で NBRP 公開成果シンポジウムを開催予定であるとの補足説明があった。

また、NBRP リソースの利活用拡大に貢献できる広報活動や、基盤整備の取組が日本の科学技術の発展にもたらす貢献を情報発信できるような広報活動が求められているとの意見があった。

2. 審議事項

(1) 第 4 期 NBRP の運営及び活動方針に関する意見交換

川本委員から、以下の審議事項が提案された。

審議事項1：ABS 対応者からの運営委員選出について、第3期まではABS 対応に関しては遺伝研から鈴木室長がオブザーバーとして出席していた。しかし、第4期よりABS 対応のための分担機関を新たに置いたため、鈴木室長をABS 対応を取りまとめる代表者として次回から委員に加えたい旨提案があり、異議なく認められた。

また、AMED 笹土主幹より、本日参加しているオブザーバーは課題実施者ではないかとの意見があったため、次回より課題実施者として出席いただくことにした。

審議事項2：次期運営委員長について、NBRP 第4期に入り、新たな人選をするのが望ましいのではないかと田畑委員長よりご助言があったが、継続性は非常に重要であり、見識が高い田畑委員長がふさわしいとの意見があり、引き続き田畑委員長にお願いすることとなった。

審議事項3：運営委員会内に情報技術ワーキングとして情報技術アドバイザー委員会を設けたいとの提案があり、主に運営委員会の委員（竹谷委員、五斗委員、星委員、榎屋委員）で構成し、情報の高度化、標準化、組織間連携について助言いただくことについて、異議なく認められた。

(2) その他

文部科学省 佐々木係長から、NBRP のライフサイエンス研究に対する貢献状況など事業の役割、重要性の効果的な発信等について発言があり、NBRP 全体にも係る今後の方向性について、以下の意見交換を行った。

- ・提供数という指標だけではなく、海外への提供がもたらす貢献等を効果的に発信できるよう、情報センターとしても協力が求められている。
- ・研究基盤は成果が出るまでに時間を要する。これまでのNBRP の活動が、いかに自国の社会貢献に役立っているかを発信できるとよい。
- ・日本は国際共同研究の件数が減少しているが、一方で中国や韓国では増加している。リソースの提供を通して、国際共同研究の件数自体を増やすことにより、海外研究者と議論し様々なノウハウを得る機会や、論文成果や研究力の向上にもつながり、日本の国際的な貢献という形も見せられるかもしれない。ただし、NBRP としてそこまで踏み込むことがよいのかは慎重な検討が必要。
- ・難治性疾患実用化研究事業（IRUD Beyond）のモデル動物コーディネイティングネットワークについて、基盤から臨床につながる良い事例にもなるため、このような活動をさらに拡大してほしい。

以上